

札幌青葉鍼灸柔整専門学校 学校関係者評価委員会 評価報告書

開催日時：令和1年5月17日（金） 19：30～21：30

開催場所：本校柔整棟 2F 会議室

出席者：水上 弘祥（北海道鍼灸柔整マッサージ師会 会長）  
関 克彦（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生：青葉会（同窓会）会長）  
吉田 真人（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生）  
渡辺 潤（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生）  
加藤 善弘（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生）  
岸野 庸平（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 統括長代理）  
岩倉 淳（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 校長）  
松永 満（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 鍼灸学科長）  
松田 心一（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 柔道整復学科長）  
富永 敦（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 鍼灸学科教員） ※書記役  
工藤 久美子（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 柔道整復学科教員） ※書記役

◆司会進行：岩倉 淳 校長

基準1：教育理念・目的・育成人材像について

- ① 介護・福祉分野を学校側でおこなうためには、しっかり教える担当者が必要である。
  - ・新カリキュラムでは外部実習が可能になり、本校では2年から臨床実習が組み込まれていることから、来年度からは介護施設に学生全員を実習させたい。
  - ・介護福祉の分野を教授できる講師がいないか探している。  
これに対して、「卒業生で機能訓練指導員、介護福祉士の資格がある人はどうか。」という意見があった。  
また、「外来講師として柔道整復学科の授業に来てもらう方法もある。」という意見もあった。
- ② 鍼灸の教育は、「古典的鍼灸＋美容鍼灸＋トレーナーだけでよいのか。」という考えについて
  - ・美容鍼灸について、「5千円や8千円を取ってもできるようになってきている。」「他の治療のオプションでやっている。」という様々な現場の状況が報告された。
  - ・美容鍼灸は、鍼灸の一つの分野を確立しつつあるのではという意見あり。
  - ・学校でもしっかりと美容鍼灸を取り入れたらどうか。
    - ⇒教育としてどうやっていくのか。
    - ⇒すでに全国的に活躍・有名な先生に教授してもらうには費用がかかる。
  - ・「美容鍼」ではなく、「美容鍼灸」という形でやった方がいいのではないか。

## 基準2：学校運営

- ① 国試対策はある程度、人員を固定すると一貫性が得られると思う（傾向と対策など）、という意見に対して、
  - ・国試対策の専門の教員を呼ぶというのはどうか。
  - ・外部から予備校の先生など、スペシャリストを呼ぶというのはどうか。
  - ・今の学生はマンツーマンで教えないと合格できない状態。
  - ・どの位の成績レベルの学生をターゲットに考えてのスペシャリストなのか？
  - ・合格率は広報活動にも大きく影響するのでしっかり対策を考えなければならない。
  - ・今年の状況（学生の成績等）を考慮すると、先に鍼灸学科に導入してはどうか。

## 基準3：教育活動

- ① 学校の特徴化を図る目的として登録販売者ゼミを週2回実施。
  - ・登録販売者の試験について7人受験中3人が合格した。
  - ・内容が難しいため、1年生は無理で、2～3年で受講させる予定である。
  - ・2年間の実務経験を積むと独立して薬を販売することが可能となることから、本校では大手のドラッグストアの協力の下、学生である期間中にアルバイト等の実務経験を積むことができる。
- ② 教員・教員組織について、教科書通りの教え方では不足を感じており、臨床に関する実践力が弱い。
  - ・教員の中には、臨床経験が少ない人も多少いるのが問題である。
  - ・学校業務が忙しいので、教員が外部で実務経験を積んで行くことも難しい状況であるが、何とかしなければならない。

## 基準4：学習成果

- ① カウンセラー等、外部講師に来てもらい自分の将来像を考えてもらうのはどうか。
  - ・セイリンの企業説明会で求人の説明会をしている。
  - ・外部の臨床実習に学生を出したらどうか、という意見に対して、
    - ⇒受け入れる方にもニーズがあると思う。
    - ⇒新卒は育てることが大変で、新卒では雇わない方針で、他の医療施設で経験を積んだ人の方がいいという意見もあり。
    - ⇒臨床実習の受け入れをすると、学生の評価を記入する書類が多く大変だという。
    - ⇒臨床実習受け入れに関する、学生一人あたりの報酬額が得られるが割に合わない。
- ② 就職してからの離職が多い。
  - ・早期離職の人数として、3～4人中1人程度の割合で辞めているのが現状。  
また、期間としては就職してから2～3ヶ月で辞める人が多い。
  - ・「自分がやりたいことと違った」などのミスマッチが辞める理由になっている。
  - ・結婚、子どもの出産で退職する人が多い。
  - ・資格に関係ない仕事に就く人も結構いる。
  - ・国家試験対策や、柔道整復認定実技審査などの対策もあり、すべて学校側で対策することは難しい。
  - ・4年前くらいに、鍼灸学科で夏休みを利用した鍼灸治療院見学（インターン）を行っていたが、学生

への指導等が不十分なこともあり、現在は実施していない状況である。

- ・実際の臨床現場をいくつか見学した方がいいのでは？
- ・学力低下のため？もあり、勉強だけで手一杯で見学に行く余裕が無い学生が多い。
- ・入試の段階から（高校の時から）学力が全体的に低下している傾向にあるのも問題。

#### 基準5：学生支援

① 中途退学者の対応について、学生だけではなくその親にも問題があるのでは。

- ・中途退学者対策の委員会を設置して議論している。
- ・今年度から新入生オリエンテーション合宿（深川合宿）をしてきたが、学生間の親睦が深められた。
- ・今後は運動会なども検討している。（学園所有の他校と合同で実施する事も検討してほしい）
- ・学生が親睦を深め、喜ぶような行事を増やしていきたい。

② 教員と学生との距離が近すぎるのも、ひとつの問題では？

- ・青葉は親近感のわく教員が多いのでこのままでいいと思うが、距離は気をつけること。

#### 基準6：教育環境

① 学外学習、インターンシップ等について

学校外に出て、ボランティア、実習など行う事は教員および学生にとっても良いことで、青葉（学校）自体のアピールにつながり、どんどん行ってもらいたいです。

- ・コンサドーレの上層部は学生を連れてきても良いといってくれているが、なかなか学生を連れてくるには問題があり、あまりうまくいっていない。
- ・千歳マラソンのボランティアはうまくいっている。
- ・レットブルのマラソンに他校がブースを出している。  
⇒来年から青葉もトレーナーのブースを出したらどうか。

#### 基準7：学生の募集と受け入れ

① 高校へ出向いての広報活動は大切だと思います。

- ・今年度は鍼灸・柔整合わせて114名の入学があった。  
⇒柔整1部のクラスは定員を充足できた。  
⇒高校生活に近い時間帯が良いのでは。
- ・昼間2部の魅力をあげるように努力する。
- ・日本語学科の新設に伴って鍼灸学科昼間1部、昼間2部の募集となる。
- ・ほとんどは札幌市内からの入学者で、地方からは少ない。
- ・寮を所有する他校は地方からの入学者が多いのではないか。

#### 基準8：財務

特記なし。

#### 基準9：法令等の順守

特記なし。

基準10：社会貢献  
特記なし。